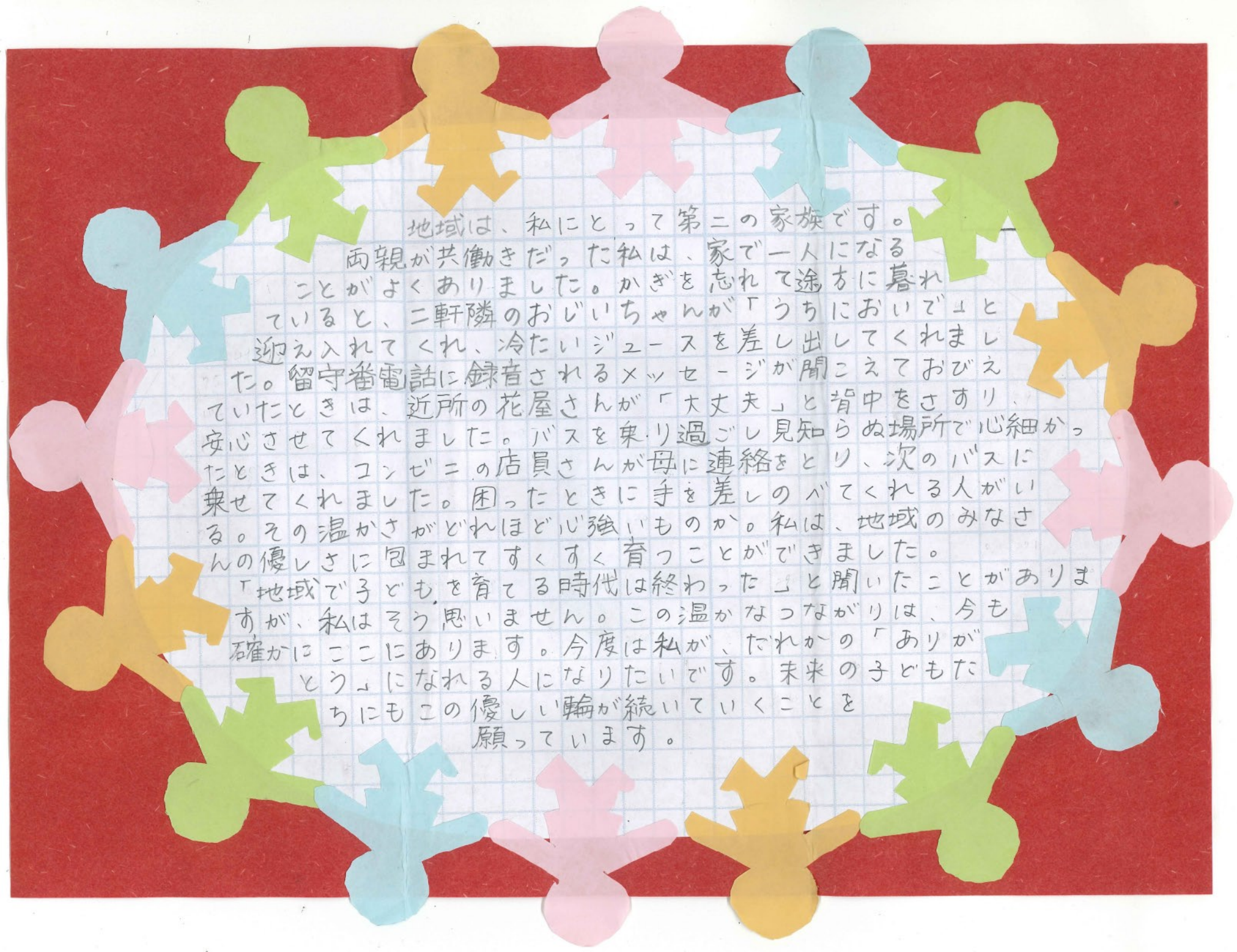




地域は、私にとって第二の家族です。
両親が共働きだった私は、家で一人になる
ことがよくありました。かぎを忘れて途方に暮れ
ていると、二軒隣のおじいちゃんが「うちにおいで」と
迎え入れてくれ、冷たいジュースを差し出してしてくれまし
た。留守番電話に録音されるメッセージが聞こえておびえ
ていたときは、近所の花屋さんが「大丈夫」と背中をさすり、
安心させてくれました。バスを乗り過ごし見知らぬ場所で心細かっ
たときは、コンビニの店員さんが母に連絡をとり、次のバスに
乗せてくれました。困ったときに手を差し伸べてくれる人がい
る。その温かさがどれほど強いものか。私は、地域のみなさ
んの優しさに包まれてすくすく育つことができました。
「地域で子どもを育てる時代は終わった」と聞いたことがありま
すが、私はそう思いません。この温かなつながりは、今も
確かにここにあります。今度は私が、たれかの「ありが
とう」になれる人になりたいです。未来の子どもた
ちにもこの優しい輪が続いていくことを
願っています。